



## 里山に育む生きものたち

### 31 ハヤシノウマオイ

(バッタ目 キリギリス科)

学名 *Hexacentrus japonicus* Karny

写真・文 / 小菅 次男

最近、枕元によく聞こえてくるのは、木の上でなく外来種のアオマツムシのリーリーという甲高い音色です。昔懐かしいスイッチョスイッチョとの音色は、ほとんど聞けなくなってきました。秋の風情を感じる虫の声が少なくなってきたのは、年配の者にとってはさびしい限りです。

### ウマオイには2種類

普通ウマオイと呼ばれているものは、実は2種類がいます。姿ではほとんど見分けが付きませんが、鳴き方が全く違います。こういうものを学術的には双子種と言います。「スイッチョ」とゆつくりした速さで鳴くものと、「シッチョシッチョ」とせわしく鳴

くものとの2つのタイプです。テンポの遅い方は林の中の下草の茂みにすみ、「ハヤシノウマオイ」と言い、速い方は開けた草原とか畑などにすみ、「ハタケノウマオイ」と言います。

### どう猛な肉食性

体長はオスが20mm内外、メスが27mm内外の中型の鳴く虫で、体や翅は美しい緑色ですが、頭から背中にかけて太い褐色条があります。オスの前翅は長く中央部が幅広く、メスは短くて細く、剣状の長く伸びる産卵管を持っています。前肢と中肢にはとげ状突起が並び、他の昆虫類を捕食するのに適するようになっています。

一見おとなしそうですが、なかなか

どう猛で、素手でつかまえようものなら、噛みつかれて痛い目に遭います。肉食性が強く、自分と同じぐらいの大きさの虫を平気で捕って食べ、2ひきを1つのかごで飼うと、共食いをしていつの間にか一匹になってしまいます。

### 分布・生態

30年程前は関東以西の分布でしたが、現在は分布が北上して北海道を除く日本各地に分布しています。西日本にはハタケノウマオイが多く、東日本にはハヤシノウマオイが多いと言います。

鳴く時期が早目の虫で8月から10月にかけて出現します。昔は夏の夜、開け放した縁先から明かりに飛び込んできて、障子などにとまる光景がありました。とまる時は、ウマオイに限らずキリギリス科の虫は頭を斜め下向きにする習性があります。

キリギリスは昼でも鳴きますが、ウマオイは完全に暗くならないと鳴かず、どこからともなく飛んできて、ひと鳴きするとまた飛び去ってしまいます。

### 名前の由来

「馬追」という名は、鳴き声が馬方が馬を追うときに、シーツと喋ってから舌をチョツチョツと鳴らすかけ声に似ているので付けられたといわれています。別名「スイッチョ」とも呼ばれています。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス [ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp](mailto:ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp)

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成26年9月30日現在)  
◆総人口 33,845人(-90)、男 16,911人(-78)、女 16,934人(-12) ◆世帯数 12,598世帯(-88)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています